

## A-アリシュタヨーガ

ラグナ（1室）、ラグナロード（1室の支配星）と月が、6室、8室、12室のドゥシュタナハウスや火星、土星、ラーフ、ケートゥなどの凶星と絡んでいるかを見ます。

ラグナ、ラグナロード、月は重要な感受点で、ラグナやラグナロードは、肉体や健康、そして、人生全般の吉凶などを示したり、配偶者運などを表わしており、月は生命力や幸福感、喜びなどを表わす要素であり、それらが傷ついているかを見ます。そして、もし、ドゥシュタナハウスや凶星から傷つけられていれば、チャートの持ち主の人生を悲惨にし、困難にし、悲しみをもたらします。

『ラオ先生はその人の肉体に何かが起こる時は、必ず1室か1室の支配星が関わっている』と言う主旨のことを述べており、ラグナとラグナロードは肉体の健康にとって非常に重要です。

そして、こうした絡みがいづく形成されているかを数や重複度などを見ます。

例えば、ラグナロードが8室に在住して、土星、ラーフと接合しているといった場合、アリシュタヨーガの影響力を強めます。その重複の度合いは重要です。

ラグナに8室を支配する土星が在住し、減衰する火星と接合して、ラーフ/ケートゥ軸と重なっているといった場合、アリシュタヨーガの要素が4つ重なっていることとなります。そうすると、悪い惑星同士が凶意を増幅しあって大変わるくなります。

例えば、ラグナロードが6室に単独で在住しているだけなら、それほど困難ではなかったものが、そこに8室支配の土星が同室して接合していたりすると、強力なアリシュタヨーガを形成し、大変な困難をもたらします。さらにそこに木星がアスペクトしていたりすると、話が複雑になります。木星のアスペクトは悲惨な状況を和らげ保護する救いとして働きます。

例えば、ある惑星のダシャーの時期があり、その惑星には凶星が絡んでいたため、チャートの持ち主は、学校で虐めにあったという事例がありました。然し、その絡みに対して、木星がアスペクトしていました。結果的にチャートの持ち主は、学校でいじめにあったものの、学校の先生がそのことをクラスで問題として取り上げ、先生の保護で救ってもらえたそうです。木星は学校の先生を通して働いたと考えることが出来ます。

因みに火星は6室の表示体であり、土星は8室の表示体です。従って、例え、土星や火星がトリコーナやケンドラなど、ドゥシュタナを支配していない場合でも、6室や8室の表示体として働きます。

アリシュタヨーガの数が多ければ多いほど、困難をもたらし、また数が多いばかりでなく、同じ絡みの中に重なって存在するほど、凶意が増幅されて強まります。凶星が他の凶星に影響されてさらに凶悪化したり、凶星が凶ハウスの環境的影響を受けて、さらに凶悪化したりしますので、もし木星がアスペクトしない場合、救いがなくなり、該当の絡みが発現するダシャーの時期に困難が発現します。

ピリーグラハムの例で見ると、ラグナとラグナロードの木星（R）に対して、生来的凶星の火星がアスペクトしています。そして、月に対して火星がコンジャンクトしています。火星は6室の表示体です。

そしてナヴァムシャでは月がドゥシュタナハウスの8室に在住し、土星、火星と接合しています。土星は8室の表示体で、火星は6室の表示体です。彼のラグナロードはケンドラに在住し、ラージャヨーガを形成し、ヨーガカラカの火星（9室支配）と月（5室支配）からアスペクトされており、大変吉様な配置をしています。然し、ラグナとラグナロードの木星が6室の表示体である火星にアスペクトされているということは、多少、健康面に火星の影響が出ると考えられます。木星は火星にアスペクトして凶意を緩和しており、この程度のアリシュタヨーガであれば、ほとんど問題にはなりません。

Edited by Kanteiya